

※同時記者発表 高松サポート記者クラブ／八幡浜記者クラブ／愛媛番町記者クラブ



令和4年6月22日
四国地方整備局
愛媛県

『肱川水系河川整備計画【中下流圏域】』を変更しました ～国・県連携し河川整備を進めます～

令和4年4月28日に作成・公表した「肱川水系河川整備計画【中下流圏域】(変更案)」について、河川法に基づく愛媛県知事への意見聴取や関係機関との協議を終え、当該計画を変更しました。

この肱川水系河川整備計画【中下流圏域】は、下記ウェブサイトでご確認頂けます。

http://www.skr.mlit.go.jp/oozu/kawa/ks_henkou_r04.html

(参考)

- ・令和4年1月20日 肱川水系河川整備計画【中下流圏域】(変更原案)作成・公表
- ・令和4年4月28日 肱川水系河川整備計画【中下流圏域】(変更案)作成・公表

問い合わせ先 (◎主な問合せ先)

◆総合的なお問い合わせ

国土交通省 四国地方整備局 電話：087-811-8317

河川部 河川計画課

◎建設専門官 有田 由高 (内線 3613)

◆河川整備計画の変更等に関するお問い合わせ

◇国管理区間に関すること

国土交通省 四国地方整備局 大洲河川国道事務所 電話：0893-24-5185

副所長(河川) 壬生 恵庫 (内線 204)

事業対策官(河川) 中塚 光 (内線 208)

◎工務第一課長 宮田 晃 (内線 311)

◇県管理区間に関すること

【大洲市区間】愛媛県南予地方局大洲土木事務所 電話：0893-24-5121

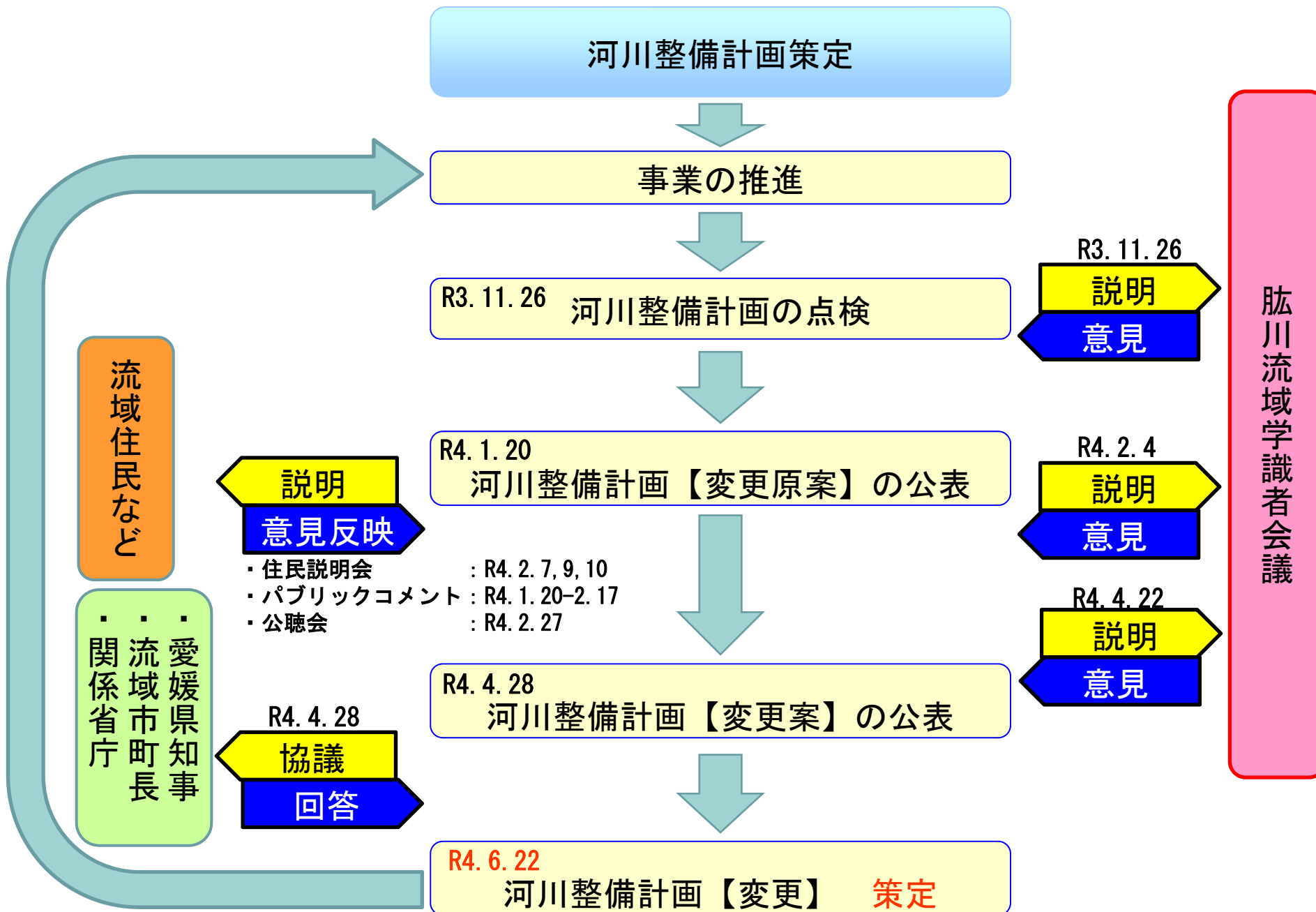
所長 石井 利幸 (内線 300)

◎河川港湾課長 河野 成司 (内線 221)

【西予市区間】愛媛県南予地方局西予土木事務所 電話：0894-62-1331

所長 岡野 準 (内線 100)

◎建設課長 相原 博紀 (内線 120)



肱川水系河川整備計画【変更原案】のポイント

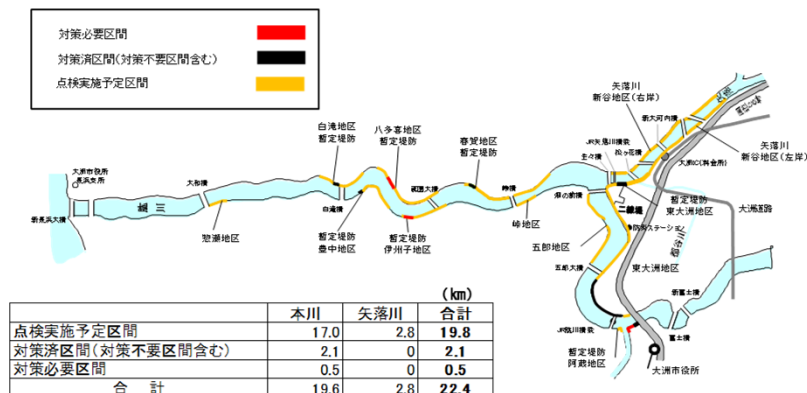
1 気候変動の影響や社会状況の変化などをふまえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う、流域治水への転換を推進します！

想定し得る最大規模までのあらゆる洪水に対し、河川整備計画で河川整備の目標とする規模の洪水における氾濫を防ぐことに加え、これを超える洪水に対しても氾濫被害をできるだけ軽減するよう河川等の整備を図ります。さらに、集水域と氾濫域を含む流域全体のあらゆる関係者が協働して行う総合的かつ多層的な治水対策を推進するため、関係者の合意形成を促進する取組の実施や、自治体等が実施する取組の支援を行います。



2 下流域（国管理区間）では、優先的に整備すべき堤防強化区間を点検し、必要に応じて浸透対策等による堤防強化を実施します！

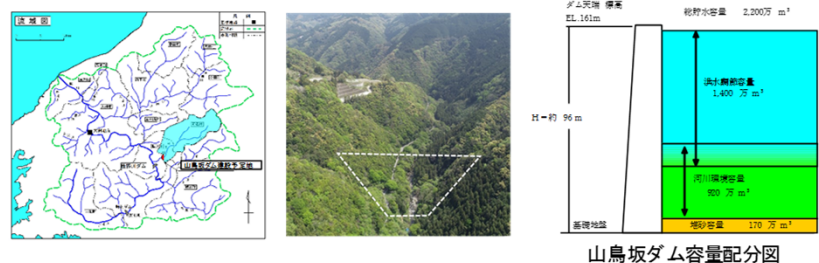
堤防漏水の実績箇所、築堤履歴（堤体土質、基礎地盤の性状等）により弱点となり得る箇所、また、堤防詳細点検後に完成した新規築堤箇所や堤防嵩上げ箇所等の区間において、改めて堤防の詳細点検を行い、対策が必要な箇所については、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全に可能な限り努めながら浸透対策を計画的に実施します。



3 平成30年7月豪雨と同規模の洪水を防ぐため山鳥坂ダム建設事業を推進します！

洪水流量の低減と合わせ、流水の正常な機能の維持に必要な流量を確保するため、山鳥坂ダムを建設します。これにより、既設の鹿野川ダム、野村ダムと合わせて、大洲基準点において、戦後最大洪水規模の流量6,200m³/sに対し、1,600m³/sの調節を行い、河道整備流量を4,600m³/sとします。

なお、昨年12月に公表したとおり、山鳥坂ダム建設予定地については、詳細な地質調査等を踏まえた事業費・工期の精査の結果、ダムサイトを上流側に変更します。



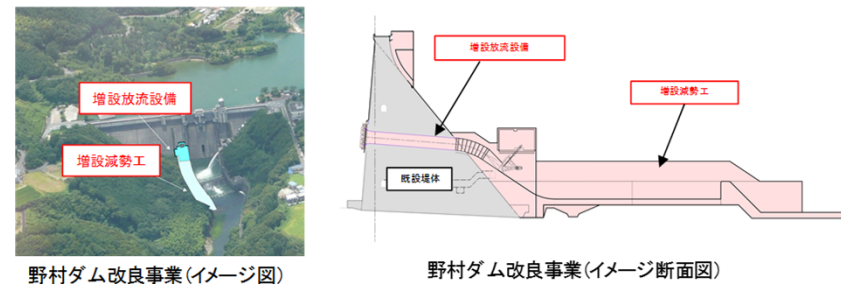
4 平成30年7月豪雨の再度災害防止のため、野村ダム改良事業を推進します！

平成30年7月豪雨では、野村ダム上流域で約600mmを超える降雨を観測し、管理開始後最大の流入量を記録しました。

野村ダムでは、利水容量の一部を洪水調節に活用する事前放流を実施するため、河川管理者並びにダム管理者及び関係利水者等との間で、肱川水系治水協定を令和2年5月に締結しました。

事前放流で確保した洪水調節可能容量（411万m³）に野村ダムの洪水調節容量（350万m³）を加えた761万m³を有効活用し、低い水位で今までより多くの洪水量を流下出来るようにするため、新たな放流設備を設置します。

※放流設備の新設は、現在詳細設計等を実施中であるため、今後、形状等が変わる場合があります。



肱川水系河川整備計画【変更原案】に対する意見について

パブリックコメント435件、住民説明会及び公聴会84件、計519件のご意見を流域住民の皆様から頂きました。

1)ご意見数

■パブリックコメントによるご意見数

種別	意見提出者数	意見数
郵送	4人	435件
FAX	10人	
Eメール	16人	
事務所ウェブサイト	119人	
投入箱	134人	
計	283人	

※パブリックコメントでは、283人の方から435件の意見を頂きました

■住民説明会

種別	日程	会場	参加者数	意見数
住民説明会（大洲市）	令和4年2月7日（月）	大洲市総合福祉センター	26人	14
住民説明会（西予市）	令和4年2月9日（水）	西予市乙亥会館	45人	13
住民説明会（肱川町）	令和4年2月10日（木）	大洲市肱川基幹集落センター	21人	16
計			92人	43

■公聴会

種別	日程	会場	公述人数	意見数	傍聴人数
公聴会	令和4年2月27日（日）	大洲市総合福祉センター	11人	41	14名

◆河川環境の整備と保全に関するご意見

意見の内容
<p>野村ダムの改造事業では環境影響評価はしているのか。</p> <p>野村ダムの新たな放流設備は、既設ダム再開発事業の一つである。鹿野川ダム改造（トンネル洪水吐増設）事業では山鳥坂ダム建設事業と抱き合わせとはいえ、鹿野川ダム改造事業として環境影響評価が行われたことになっていた。野村ダム放流設備の事業では環境影響評価は実施しないのか。もっとも専ら山鳥坂ダムに関する環境影響評価のみで、鹿野川ダムトンネル洪水吐に関する環境影響評価は実際的には行われていないことである。</p> <p>環境に与える影響は、どのような運用操作を行うかによるが、鹿野川ダム本体のゲート操作とどのような関係操作が行われるかについて説明を聞くことはなかった。</p>

四国地方整備局及び愛媛県の考え方	考え方に対応した「変更原案の修正案」の内容
<p>野村ダム改良は、湛水面積の変更はなく、ダム下流右岸減勢工の増設部の土地改変があるものの軽微（1ha）な改良であるため、環境影響評価法に基づく評価対象事業には該当しておりません。</p> <p>しかし、ご指摘のとおり工事中の環境への影響も低減するように努めると同時に、モニタリング調査も実施しながら、できるだけ環境保全に努めていきたいと思えます。</p> <p>整備計画P121において、「野村ダムの改良事業においては、できるだけ環境に配慮して施工を行い、モニタリング調査を通じ、必要に応じて対策を実施し、環境の保全に努めていく。」と追記することとします。</p>	<p>P121 ii) ダムの改良の16-17行目に文章追加</p> <p>野村ダムの改良事業においては、できるだけ環境に配慮して施工を行い、モニタリング調査を通じ、必要に応じて対策を実施し、環境の保全に努めていく。</p>

◆河川空間の適正な利用に関するご意見

意見の内容	
また、ダムが一つの観光資源となるよう、ダム周辺環境整備に努めるなど地域振興にも配慮いただきたい。	

四国地方整備局及び愛媛県の方針	考え方に対応した「変更原案の修正案」の内容
<p>山鳥坂ダムでは、水源地域及び流域の住民、県・市町等の関係機関と広く連携し、ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を目的とした「水源地域ビジョン」を策定し、取り組んでいく事としており、国としても積極的に支援する事としています。そのため整備計画(変更原案)の記載内容についてもP143に追記することとしております。</p>	<p>P143 (2)ダムの維持管理に文章・写真追加</p> <p>「水源地域ビジョン」の基本方針に基づき、関係機関と連携し、ダム湖を含むダム全てを活用するイベント、見学会などを開催し、流域内外の上下流の交流・連携を一層進め、相互の理解を深めると共にダムの役割について学習する場を提供する。また、流域のダムが連携して観光資源としてのダムツーリズムについても実現できるよう努めていく。</p>

●ダムを活用したイベント



野村ダム施設見学会の様子



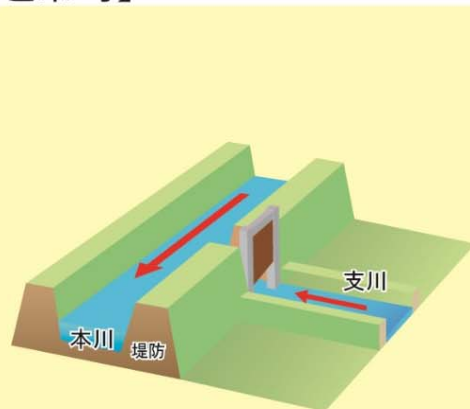
朝霧湖マラソン

◆洪水時の内水氾濫対策に関するご意見

意見の内容	
<p>ソフト対策</p> <p>整備計画変更案に関係ないかも知れませんが、ダムの放流により内水氾濫が起こったと考えている住民もおります。ダムの放流の仕方、洪水対策についての説明等はよく耳にしますが、内水についてのメカニズム等の分かりやすく説明を記載して頂きたいです。</p>	
四国地方整備局及び愛媛県の方	考え方に対応した「変更原案の修正案」の内容
<p>内水の説明図を変更原案P122に追加することとします。</p>	<p>本文 P122</p> <p>内水氾濫発生メカニズムの説明図を追加</p>

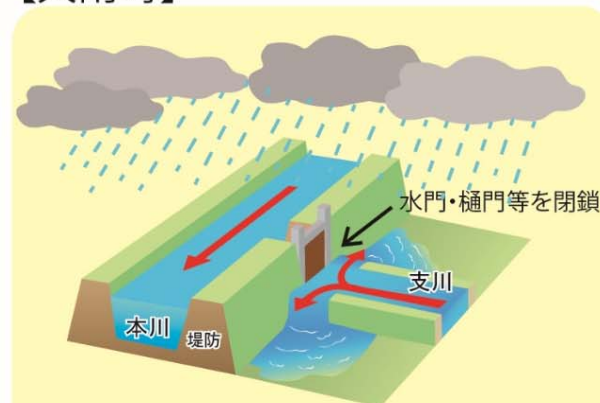
●内水氾濫発生メカニズム

【通常時】



堤内地側に降った雨は、支川を通じて本川に排水される。

【大雨時】



大雨が降ると川の水位が上がる。本川の水が支川に逆流しないように水門・樋門等を閉鎖することで、支川の水が本川に排水できなくなり、行き場を失った水が堤内地にあふれる。